

1. 活動のテーマ

<テーマ>

絵本

<テーマ設定理由>

○キッズタウンむかいはら保育園にはクラスの本棚の他に絵本コーナーが3ヶ所があり、特に2階の絵本コーナー（30㎡）には、子どもが自由に好きな絵本を選べる環境を作り『絵本』に力を入れている。

『絵本』を通して興味関心を広げたり、調べたいという探求心、物語からの表現力や情緒など感情について、文字や言葉の獲得など成長には欠かせないツールのため、子ども達の絵本好きをより深めたり、いつでも読みたい絵本コーナーの作製を行う。

○板橋区が『絵本のまちいたばし』として絵本に力を入れており、毎月図書館の読み聞かせや区からの各家庭に赤ちゃん絵本の配布など子ども達は絵本にふれる機会が多く保育園でも開設当初から絵本に力を入れ大切にしてきた。改めて子ども達、職員共に絵本について考える機会にする。

<内容>

○絵本コーナーの環境を子ども達中心に新しくデザインし、より絵本を好きになったり、新しい空間の中でわくわくな発見につなげ、発見を次に生かし良いものに変化を続ける。

○絵本について子ども達一人ひとりやみんなで色々なアプローチで考えたり、共有したり、表現したりしていく中で絵本について深く探求する機会をつくり絵本を通しての心身の成長につなげたり、絵本を読み解き表現や製作等に生かしていく

2. 活動のスケジュール

① 絵本をみんなに好きになってもらう・ずっと居たくなる絵本コーナーの空間づくり（7、8、9月）

- ・職員で絵本係を設定し子ども達に読んでほしい絵本の選定、絵考える。
- ・常設絵本交換ポスト『どうぞの絵本』を実施
- ・本を読める場所、子どもの楽しい空間づくりとして玄関の絵本コーナーと2F 絵本コーナーの変更

② 幼児3クラス 好きな絵本や読みたい絵本について話し合い（10月）

- ・自分の好きな絵本を相手に発表する。
- ・保育園に欲しい絵本をみんなで意見を出し合う。
- ・他の友だちに薦めたい本を紹介する。

③ 夢の絵本コーナーの話し合い（11月）

- ・どんな絵本コーナーがいいか、どんなものを置きたいかなど意見を出し合う。

④ 好きな絵本をみんなに知らせよう（12月）

- ・自分の好きな絵本の絵を描いて表現、張り出す。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

会議の議題を事前に伝え職員にも意識を持ってもらったり、考えてから会議に参加してもらう。
絵本交換ポスト作成では、子どもたちにイメージが持てるように色の見本を持ってきたり、はじめにどうしてポストを作りたいのかなどの話しをしてから進める。

4. 探究活動の実践

<活動内容>

① 絵本をみんなに好きになってもらう(7, 8月)

(A) 職員で絵本係を設定し子ども達に読んでほしい絵本の選定、絵考える。

職員会議の中で今年度の絵本係を選出したり、絵本を題材にできることを検討する。3つのグループに分かれながら自分の好きな絵本の話しやこの保育園でできることややってみたいことを検討する。

→絵本の充填、買い足し・絵本の交換ポストの作製・絵本コーナーの変更、充実

(B) 常設絵本交換ポスト『どうぞの絵本』を実施

様々な種類の絵本にふれる機会としてできることを考え、絵本交換ポストを作ることとなり、5歳児にポストの色や本棚の大きさなど話し合いを行い、みんなで協力して作成をする。完成後はお歌の会(毎週月曜日の全クラスが集まる集会)の中でポストについて説明し運用する。次の日からすぐに交換が行われ、保護者の中には1冊以上の本の寄付をしてくれる方もいて次の方に絵本をという優しい気持ちが見れている。

(C) 本を読める空間づくりとして絵本コーナーの変更

まず、始めに玄関の絵本コーナーの変更から着手する。

保育園の広い玄関フロアに本棚と大きな円卓が置いてあるコーナーだが絵本を置くこともなくなってしまう本棚や机の乗ってしまうだけの空間になってしまっていたが看板を作成し、職員間で定期的な絵本の入れ替えスケジュール(2週間に一度入れ替えていく)を決め変更する。

○活動中の子どもの姿、声、子ども同士や保育士とのやり取り

(A)

クラスの子どもの様子から必要な絵本を出し合ったり、開設10年を超え、絵本が全体的に減ってきていて、特に図鑑が落丁してしまっていることなどの意見が出て「昔からのベストセラーだけでなく今の時代に合わせて生まれてきた絵本も取り入れたい」という声や「子どものあそび場や図書館のような空間を作りたい」など夢のある話し合いを行った。

<決まったこと>

- ・絵本の選定・購入は絵本係が行う
- ・絵本交換ポスト作成は5歳児を中心に作成して設置
- ・絵本コーナーの変更は玄関と2階の2カ所を行い、玄関は絵本係で作製し、2階は職員が土台を検討しながら子ども達の夢を詰め込んでいくこととする。

(B)

絵本交換ポスト作成の話しを子どもたちにすると

「ポストだから赤かな」

「目立つように明かるい色にしよう」

「特製のポストだからカラフルがいいな」

などの声があり子ども達が選んだ色を貼り絵で作成する。

作成中も声を掛け合いちぎる担当、のりを塗る担当、貼る担当など分担しながら作成を行う

「ここノリぬって」「ここは紫入れよう」「きれいに貼らないとだめだよ」などたくさん会話をしながら作成する。出来上がった本棚とポストを見ると

「早く絵本ならべよう」「ポストに絵本入れてくれるかな」「まず私が絵本入れる」などこの先のイメージを持ちながら会話が見られた。

(C)

係で玄関絵本コーナーを『あ・た・ら・し・い・え・ほ・ん』コーナーと決め看板を作り、園からのお便りでコーナーについて保護者に紹介し係で検討した絵本を設置してみる。

お迎えの時間に子ども達がまず気がつき「絵本よんで～」と好きな絵本を保護者に渡して読んでもらっていて1 家庭読んでいると「〇〇ちゃん呼んでるから読みたい」「△△くん一緒に読もう」など夕方の時間円卓に親子で絵本を読む様子が増えてくる。夏の間は夕立の間読んで待機をしたり、昨日の続きを読むなど継続的な利用が見られた。

○写真

職員会議 グループワークの様子



絵本交換ポスト作成



変更前の絵本コーナー 棚で遊んだり、机の上にスツールを載せたりする



絵本コーナー看板設置、新絵本の設置、変更後



<振り返り 気づき>

- ・取り組みとしては職員が中心であったが職員みんなで考えることで様々な意見や一人では考えられない発想などが見られた。保育業務をしながら職員間で分担しながら進めることができた。
- ・玄関絵本コーナーを看板の新設、定期的な絵本の設置、交換だけで保護者、園児共に自然にコーナーに足が向いて座った読む姿が見られた。親子で絵本を読む時間が減ってきている中絵本を読む場所を作ることで親子の時間を少しでも作ることに繋がった。そして一人が読んでいると他の家族もというように増えていく様子も見られた。保護者の中には複数名の子ども達に読み聞かせをしてくれる様子もあり、絵本を通して親子の関わりや子ども同士の交流につなげることができ子ども達の大切な空間となった。
- ・絵本の交換ポスト『どうぼのえほん』ではSDGsの取り組みとして始めると幼児クラスの子どもたち中心に日々保護者と一緒に交換が見られた。毎日本棚を見る姿も多く、変化が見られると「明日持ってこよう」と話していた。

課題としては低年齢向けの絵本が多くなってしまい、回転サイクルが無くなってきてしまったというところ（幼児クラスの子どもの読み終わった絵本＝赤ちゃん、乳児の絵本が多いためポストに入る絵本が低年齢児向けが多い）今後は絵本の寄付を募り、絵本の補充をしていく。